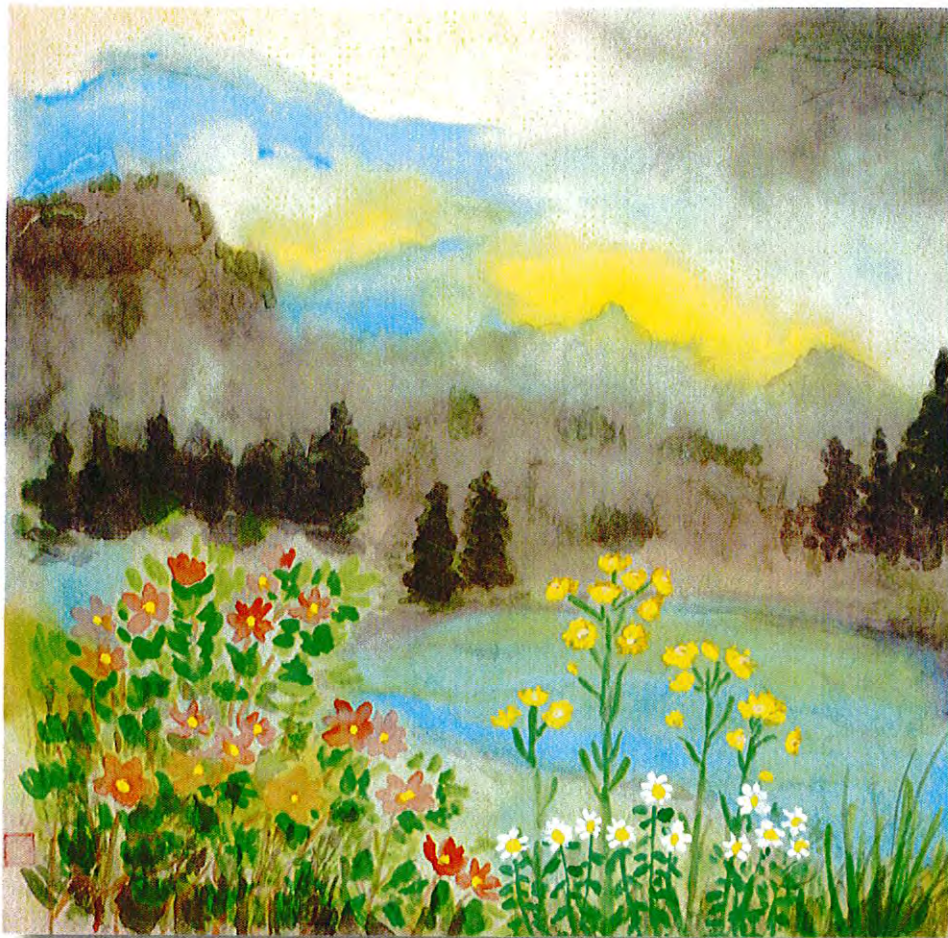


つまりぼーと

十日町市中魚沼郡医師会 会報
第45号平成24年7月27日発行



「小松原湿原の花」大島医院 院長 大島義隆

社)十日町市中魚沼郡医師会



「集中と選択」の抱える課題

医療法人 山口医院
院長 山口孝太郎

富山市が好きで妻と時々車で訪れる。海(富山湾)と山(立山)のどちらも楽しめるし、北前船の歴史に触れるのも楽しい。白エビやホタルイカ、サクラマスなど新潟の海とはまたちょっと違った海の幸がおいしい。

その富山市で近年注目されているのが、コンパクトシティの構想に基づく街づくりである。住居や商業文化施設などの都市機能をコンパクトな地域に集中させ、便利な交通機関で結ぶことにより効率の良い街づくりをするというものである。実際訪れてみると、低床式で静かなライトレールという新しい型の市電は乗っていて楽しいし、美術館や港近くの北前船の歴史館も結ばれているので、観光客にも便利である。高齢化・人口減少化社会に向かい、街づくりの一つのモデルとして今後もますます注目されていくかもしれない。

当地域における魚沼基幹病院の構想も、この「集中と選択」の考え方に基づいている。医療の高度化が求められる中、当地の医療の供給不足は深刻であり、一方で今後ますます高齢化・人口の減少化が予想される中であって、魚沼地区においても適切な形の集中と選択は必要であろう。ただ今回の基幹病院構想は根本において、地理的視点が欠けていることを私は初めから指摘してきた。「集中と選択」という概念は、当然のことながら言葉の裏に「切り捨て」という意味を含んでいる。従って集中と選択を行う際には、この切り捨てられる部分に対しての十二分の説明、配慮が必要である。前述の富山市においても切り捨てられた地域はあったのだろうが、富山市のホームページによると、これまでのやり方に対して、ライトレールの沿線以外の地域でも極めて高い満足度が得られている。ただかの地は富山平野という平坦地のモデルであるのに対し、魚沼地域は山岳地帯であり、ライトレールのような便利な交通機関で簡単に行き来するわけにいかないということは大きな相違点である。このような地域で富山市と同じ感覚で「集中と選択」を構想することは、等高線のない地図を見て考えているか、または学校で等高線の読み方を習ってこなかった人達が考えているかのどちらかだろう。

さてこの度の当医師会総会で、十日町市中魚沼郡における休日当番医のセンター化が議論された。これも「集中と選択」に通じる要素のある話である。歴史的に医療供給資源が乏しい当地域において、我々の先輩世代が休日救急医療の在宅当番医制を作り上げてきたことは、称賛に価すると思われる。しかし時代が変遷し、地域内では自家用車による移動が比較的簡便になった今日においては、適切な「集中と選択」を行って、医療のより効率的な活用を図る必要があるのではないかと、というのが主旨である。

こうした考えは時代の流れを考えると妥当だろうし、工夫によって実現可能と思われる。総会でも結論として支持された。ただ前述したように、「集中と選択」の構想には、必ず「切り捨て」の要素が伴っていることを忘れてはならない。周辺部地域の住民にとって、休日救急センターが中心部にしかないということで、切り捨てられたと感じることがあってはならない。今回の総会において、来年度からの休日当番医制はセンター方式と、従来の在宅当番医制の併用を行うということに決まった。やってみてまた、よりよい方法を考える努力を続けたいところである

(医師会入会:昭和63年4月)



会長就任の御挨拶

医療法人 富田医院
院長 富田 浩

十日町市中魚沼郡医師会は、会員数 50 名(平成 24 年 4 月 1 日現在)という県内でも小規模の医師会です。しかしながらその活動は多岐にわたり、地域の医療・福祉・保健の各分野への対応に会員各自が忙しい毎日を送っています。解決すべき問題は山積みであり、今後の会員間の討議や行政との交渉などに多くの時間を割く必要があるでしょう。なかでも地域医療の崩壊を食い止めるためにも、現在県が主導して進められている魚沼医療圏の再編に関しては積極的に参加する必要があると思います。信濃川と魚野川という二つの大河にまたがる魚沼医療圏では小千谷市を含む三魚沼の各医師会が独自の活動を展開してきました。およそ 10 年前より県が魚野川筋に三次救急も対応できる魚沼基幹病院(仮称)建設を企画し、基幹病院を中心とした魚沼医療圏の再編に着手しました。魚沼基幹病院は平成 24 年度早々に県が設立する財団法人を経営母体として発足し、平成 27 年の 6 月開業を目指して着工されました。しかしながら信濃川筋の医療の拠点となる、二次救急まで担当する県立十日町病院の改築問題は、県より公設民営という重い命題を突き付けられ、紆余曲折を経てようやく建設に向けてのシナリオが描かれたところだと思われます。基幹病院との同時開院を目指す新十日町中核病院の全体の完成は平成 30 年と予想されています。この間の約 3 年間の遅れを取り戻すべく、今から新十日町中核病院を中心とした当圏域の医療の再編を目指すことと、魚沼医療圏内の医師会間や魚沼基幹病院との連携を深めるような活動を当医師会は模索するべきと考えます。後者に関しては魚沼地域をひとつの医療学校と考えて、住民の啓蒙や教育活動を行う地域医療魚沼学校に当医師会も積極的に参加し、関連した地域医療研修医の受け入れや医療関係者への教育研修などの事業にも着手しています。また圏域の医療機関や調剤薬局間、さらに将来は健診機関や保健担当の行政とも電子的な連携を可能とする魚沼地域医療連携ネットワーク事業も具体化しようとしています。しかし、前者の新十日町中核病院を中心とした地域医療の再編にはこれからさらに力を注ぐ必要があるでしょう。長年議論されてきた休日在宅当番医をめぐる問題。医師数の減少が続く県立病院を受診する一次救急患者を減らして病院医師の負担を減らすためにはどうすべきか。災害や新型インフルエンザの発症時に対応するための医師会としてのシステムや拠点作りの必要性。会員数が減少するなかで、学校保健や産業保健そして介護と福祉の分野にどう対応すべきかなどなど。解決に向けて昨年度は医療と行政の関係者で十日町市中魚沼郡医療連携協議会を立ち上げて協議をできる場を設けました。今後も活発な協議と連携を図っていく所存です。会員の皆様方の医師会活動への積極的な参加とご協力をお願いします。



理事就任の御挨拶

せき 整形 外科
院長 関 真人

本年4月より、当医師会の新理事をさせていただいております。医師会員は十年目になりまして、少しは世のために働きなさいということかと思ひ、未熟者ではありますが拜命いたした次第です。担当は広報ということで、ご経験豊富な諸先輩のご助言を賜りながら職務をなんとか全うしたいと考えております。

小生は、平成2年新潟大学整形外科教室に入局し、平成10年に、新潟大学より医学博士を拝受いたしております。平成14年より現職、せき整形外科院長を勤めさせていただいております。当地とのご縁は、小生が十日町病院に在職したことがあることと、十日町病院整形外科医長のご経験もある、遠藤直人整形外科教授より「せきちゃん、十日町整形の診療所なくてこまっているし、どお？」と、お声をかけて頂いた事に始まっておる次第です。中越地震の際には、当日の停電の中にも教授から直接お見舞いのお電話を頂きまして非常に恐縮かつ、心強く励まされ、また支援いただき診療続けることができ、本日にいたっております。

昨今の、医師不足の例に漏れず、魚沼三郡での新潟大学整形外科マンパワーは、小生の開院時と比べましても半分近くに減っておりなかなか厳しい状況です。その一方で、地域の高齢化により手術件数は、増加傾向にあると聞き及びます。勤務医の先生方とも緊密に連携をとりながら、お手伝いできるように、地域の期待にこたえるべく精進したいと思います。

医師会事務局のある本町分庁舎の会議室には、すばらしい帆船模型が飾られており登坂健二郎先生の名作とお聞きいたしております。小生は、プラスチック模型製作をいたすことがありますが、これに比べますと帆船模型は緻密かつ、根気、そして正確さを必要とするもので、大変敬服いたしておる次第です。小生プラスチック模型は、どちらかというと数集めと申しまししょうか、数を増やして並べて喜ぶという量産志向の製作方向であります。小学生の頃より、こつこつと製作いたしてきまして、1/700のウォーターラインスケールで現在160余隻の艦隊編成になっております。また、1/72スケールの日本陸海軍機も60機ほどになり自宅車庫のガラス棚に、停泊、格納いたしてあります。

運動は、このところ投球練習に熱中しております。これは野球というよりは、どちらかといいますと精神集中が主でしょうか。子供のころ聞いたさまざま変化球を投げてみたくなり、あれこれ自分なりに工夫して投球しております。日々、練習しておりますと、ボールを入れているプラスチックのカゴがだいぶ傷んでまいりました。みかねた小学二年生の次男が、お小遣いから、ボール入れにとカゴをプレゼンとしてくれました。と、ボールの古さもみなさん気になる位だったのでしょいか、医院スタッフも、私の誕生日に各自一個ずつ自筆サインの入ったボールを贈ってくれました。いずれも、ありがたすぎて、大事にしまいこんでしまい相変わらず古いカゴとボールで日々鍛錬しております。

医師会の理事としてはまだまだ、若輩者であります。当地の経験豊かな諸先輩先生、また優秀な事務局の江村さん、庭野さんを頼りに何とか務めあげたいと思っております。今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます、就任挨拶とさせていただきます。



理事就任の御挨拶

一般財団法人 上村病院
院長 上村 斉

このたび十日町市中魚沼郡医師会の理事に就任いたしました上村斉です。旧市街地の中里村田沢で病院を営んでおります。多くの諸先輩により築かれてきた医師会の名に恥じぬようがんばっていく所存でございます。どうかよろしく申し上げます。

私は東京慈恵会医科大学卒業後、群馬大学第1外科に入局し麻酔・ICUなどの研修、研究を行い、胃がん・大腸がん・肺がんの手術・治療、肝移植にもっぱら従事しておりました。卒後11年、平成15年4月に上村病院に赴任してまいりました。

現在わが病院は内科・外科・整形外科・皮膚科・婦人科・眼科・耳鼻科・リウマチ科、健診センターの布陣で診療業務を行っております。私自身は高血圧・糖尿病などの内科疾患に始まり外傷、骨折、変形性関節症の管理治療、時々手術・他科の麻酔医、胃大腸内視鏡、胃がん・乳がんマンモグラフィ読影、特養七川荘・妻有荘の管理、学校医・産業医そしてさらに少ない病院管理を行っております。専攻してきた分野からは少しそれつつありますが地域の皆様のためにお役に立てるよう勤めてまいりたいと思います。

祖父母の代から始まった上村病院もすでに開院65年たち、この地域の皆様に愛される病院となるべく職員ともども日々業務に研鑽しております。公の補助のない中なんとか業を営んでまいりました。しかし、過疎地域の宿命でもあります人口構成の高齢化によりこのところ業務の改善・転換におわれ日々奔走しております。患者さんもそうですが、職員の高齢化により、いつもと同じ毎日の仕事も、年々きつくなってきている中、診療報酬をはじめとする管理業務の難しさ、与えられ・改善せねばならぬ基準や規定の厳しい進化にどうにかやっているような状況です。加えて日々進歩発展する医療知識や技術の習得もインターネットだけではならず、田舎ではなかなか簡単にはまいりません。今後も地域の基幹病院や中核病院のお手伝いができるよう頑張るのみです。先日、小泉改革の名の下でおきた財団法人問題にわが病院も決着がつき、一般財団としての許可がおり再出発しました。経営的には非常に厳しいため、今国会の消費税引き上げは死活問題となりそうです。

地域の救急事情については、現在かなりの部分で十日町病院にお願いしており心苦しいかぎりではありますが、会長の強い志で当医師会として休日救急センター化に向けようやく一歩が踏み出されました。私も微力ながら会員の皆様と地域住民のみなさまのために取り組んでいけたらと存じます。今後ともよろしく願いいたします。

平成 24 年度 第 1 回通常総会議事録

日時:平成 24 年 6 月 9 日(土) 16 時 00 分～18 時 00 分

会場:ラポート十日町「飛鳥の間」3 階

・会員総数 50 名(・出席者 13 名 ・委任状提出者 30 名 ・欠席者 7 名)

I)開会

16 時 00 分定刻に江村事務局長が、十日町市中魚沼郡医師会「平成 24 年度第 1 回通常総会」の開会宣言をした。

II)会長挨拶

富田会長より、平成 24 年 4 月 1 日より会長就任にあたり、新会長としての抱負を交え挨拶をいただいた。

III)報告事項

1. 会員 入退会・異動報告

【入会】・高橋 明仁(厚生連中条病院) 4 月 1 日入会

・佐々木公一(介護老人保健施設 みさと苑) 4 月 1 日入会

【退会】・石神 正文(介護老人保健施設 みさと苑) 3 月 31 日退会

・牛山 信(厚生連中条病院) 4 月 1 日退会

2. 事業報告書

資料にて報告された。

3. 業務分担

平成 24 年 4 月 13 日に開催された第 1 回理事会において承認された業務を分担表に基づき報告された。

4. (新潟県医師会)平成 24 年度 第 1 回郡市医師会長協議会報告

平成 24 年 5 月 29 日新潟県医師会館において開催された郡市医師会長協議会での議題から抜粋し富田会長より報告がなされた。

IV)議長挨拶

高橋議長より就任の挨拶をいただき、本日の総会に出席者 13 名、委任状提出者 30 名計 43 名、欠席者 7 名で定款第 26 条、会員 50 名の過半数を持って本日の第 1 回通常総会が成立されたことを宣言された。

V)議事録署名委員(2 名)選出

高橋議長より、議事録署名人に登坂健二郎先生、室岡 寛先生を指名し、両者より了承をいただいた。

VI) 議事

1. 第1号議案 平成23年度 収支決算報告・監査報告

高橋議長の指名により、江村事務局長から平成23年収支決算報告がなされ、林 監事より会計監査報告がなされ承認された。

2. 第2号議案 公益法人移行に係る定款変更について

高橋議長の指名により、江村事務局長より平成25年4月1日からの一般社団法人十日町市中魚沼郡医師会における新定款の内容が説明され承認された。以後の細かな変更は、富田会長に一任するという事で承認された。

3. 第3号議案 休日一次救急センター化について

第3号議案に対し、十日町市より担当者3名がオブザーバーとして出席され、高橋議長の指名により、富田会長が資料に基づき説明をされた。休日一次救急をセンター化に向けた重要要件の為、出席会員より是非について意見を求めた。また、十日町市の取組については会員より質問があり、尾身市民福祉部長より説明を受けた。

このことについて、高橋議長より医師会・十日町病院・十日町市・津南町の四者間で協議会を立ち上げ、平成25年4月1日からの開設に向け、速やかに協議を重ねるように高橋議長より提案があり、出席会員より承認された。

VII) その他

高橋議長より、その他事項については資料に基づき確認するよう指示があり、出席会員から承認された。

【内容】 1.平成24年度十日町市中魚沼郡学術講演会の取組について

2.今年度の事業活動について

- ア. 住民の医療参加促進事業について
- イ. 医療従事者のスキルアップ事業について
- ウ. 平成24年度産業医研修会開催について
- エ. 各種イベント無料健康相談開催について

3.平成24年度地域医療研修医受入事業について

VIII) 来賓の挨拶

高橋議長より関口十日町市長、上村津南町町長が紹介され、両者より挨拶をいただいた。

IX) 閉会

高橋議長より本日の総会議題が全て終了されたことを受け閉会を宣言し、午後18時00分、総会を閉じた。

◆ 地域医療研修コーディネーター事業報告 ◆

今年度は下表のスケジュールで昨年度より1名少ない研修医の先生方(5名)を受け入れ致します。今年度も保健・医療・福祉・教育機関の他、多岐にわたり大勢の皆様のご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年度地域医療研修事業 研修医一覧表

No.	受入月	研修医氏名	指導機関 (指導医名)	所属機関
1	5月(終了)	津田 明奈	山口 医院 (山口義文)	東京医療センター
2	8月	一条 慧	富田医院:予定	慈恵会医科大学
3	8月	近藤 達弥	町立 津南病院	慈恵会医科大学
4	9~10月	和田 武	山口医院(下条)予定	東京医療センター
5	10月	清水 香	町立 津南病院	慈恵会医科大学

～津南町立津南病院での地域医療研修～

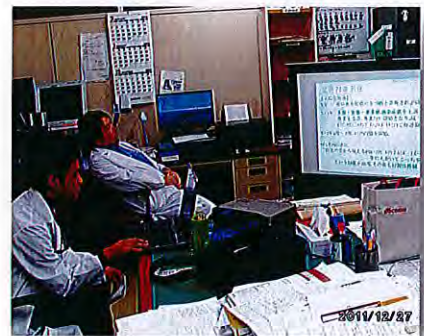
東京医療センター初期臨床研修医 九島秀樹

津南病院での4週間の研修を終えて3か月ほど経ちました。このように感想をお伝えできる機会をいただき、大変ありがたいことです。この機会に4週間で感じたこと、学んだことを改めて振り返りたいと思います。

私は生まれも育ちも東京で、ほとんどすべての出来事が都内で完結しているような生活をしています。もちろん旅行で出かけることはありますが、東京以外の土地で生活することは初めてでしたので期待とともに不安もありました。ですが病院の方々の心遣いのお陰で、不自由なく生活することができました。また、研修の時期も夏が終わり秋が始まる頃で、稲の生長とともに少しずつ風景が変化していく風情を感じることができて非常に豊かな気持ちになれました。

研修では、津南病院が津南町の人々にとって重要な存在であることを感じました。医療機関に限られていて、地域でのつながりも深いためか、医療従事者と患者さんの距離が近いということが印象的でした。患者さんの病気だけでなく、自宅での生活のこと、お世話をする患者さんのご家族・介護のことなど、その人の人生ごとに見ているような感覚を覚えました。

初期臨床研修制度によって医局に入局する医師が減り、



大学病院からの派遣医師の引き上げがありました。その影響で、専門診療科の医師がいないため隣町まで通わなければならない状況になってしまうなど、医療制度の改革が人員不足の地域の医療に大きな影響を与えてしまうことを感じました。こうした状況は字面でわかっている、実際に目の当りにすることでより現実的な問題としてとらえることが出来るようになったと思います。

津南町にいたからこそ感じる事ができたことが数多くあり、私の医師人生の大きな糧になりました。ここには書き尽くせませんが、数多くの貴重な経験をさせていただけたこと、多くの方々の御厚意にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。ありがとうございました。津南町は私の第二の故郷です。(2012.1.14)

～地域医療研修を終えて～

東京慈恵会医科大学研修医 西 浩之

地域医療研修として新潟県十日町市に一ヶ月間お世話になりました。東京からなぜわざわざ敢えて十日町を選んで来られたのですかとよく不思議そうに聞かれました。

その理由としては、地域医療のプログラムとして新潟・静岡・東京郊外を選択することができたのですが、折角体験できるのであれば一番医療状況的に厳しい地域に行ってみようという思いがあったからでした。

十日町では、県立十日町病院に一週間、残りを開業医さんのクリニックで勤務させて頂きました。県立病院では二次救急であるにも係わらず、三次救急病院が車で約一時間離れた所にあるため現地付近のCPAが全て担ぎ込まれ実質三次救急を担っている現状を目の当たりにしました。さらに、救急専門の医師は在籍せず、数少ない内科外科医師が対応するという現実には東京とかけ離れたものでした。敢えて大袈裟に言うなればテレビの中だけのものと思っていた状況が現実存在するんだと実感しました。しかし、絶対的なマンパワーの不足により研修医も即戦力と考えられるため、リスク回避に偏りがちな都市圏とは違った貴重な経験もすることができました。

クリニックでは主に外来を見学させて頂きました。十日町の人達は皆お話し好きで素朴・温和で人情味たっぷりの方が多く非常に楽しい時間を過ごせました。しかし、高齢者が多く病識の希薄な方も多く病勢が悪化して



しまうというケースも沢山目撃しました。病院・クリニック以外では特別介護老人ホームを訪問し食器を洗ったり、食事の介助をしたり談笑したりと普段体験できないことができ、非常に新鮮で有意義な時間を過ごせました。同じ患者さんを見る場合でも、看護師・医師では違った目線から見ているので意見が違うのが当たり前で、両方の意見を取り入れ助け合っていくことが重要だと改めて気付かされました。また、御高齢の方々ばかりでなく検診

では十日町の子供達と触れ合うこともできました。あまりの可愛さに仕事そっちのけで子供達と遊んでしまいました。

勤務が終わった際には、度々先生方が食事に誘ってくださり新潟の味覚を存分に堪能することが出来ました。地酒の松乃井は格別でした。

今回医師会のスタッフ・医師の御厚意に支えられながら、たくさんの人々と出会い、様々な事を経験することができ見識を広めることができ非常に感謝しております。ここで学んだ事を将来還元していけたらと思っています。(2012. 2. 20)

■□■□■□ 住民の医療参加促進事業 ■□■□■□

□■ 十日町塾 □■

1)平成 24 年7月 20 日(金) 午後 18 時 30 分～

地域救急医療再生を考える！

会場：(財)十日町地域地場産業振興センター [クロス 10]

講師：十日町市中魚沼郡医師会 会長 富田 浩 先生

新潟県立十日町病院 院長 塚田 芳久 先生

新潟県立小出病院 院長 布施 克也 先生

司会：十日町市中魚沼郡医師会 副会長 山口 義文 先生

2)平成 24 年9月 12 日(水) 午後 18 時 30 分～

健康寿命を延ばすーがん予防最前線ー

会場：十日町情報館 1 階視聴覚ホール

講師：医療法人 山口医院(下条) 院長 山口 孝太郎 先生

新潟県立松代病院 院長 鈴木 善幸 先生

司会・挨拶：十日町市中魚沼郡医師会 会長 富田 浩 先生

十日町市中魚沼郡医師会 副会長 山口 義文 先生

3) <平成 24 年度 地域医療研修医による講話>

こどもの急病・事故！上手な受診のしかた

開催場所:市内各保育園

講師：地域医療研修に来られた先生方をお願いしております。

※ 十日町塾は以上の 3 件が年内の講演会の予定です。

□■ 津南塾 □■

1)平成 24 年 6 月 16 日(土)

検診で助かるがんについて

会場：津南町役場大会議室

講師：新潟県立十日町病院 外科部長 林 哲二 先生

2)平成 24 年 6 月 22 日(金)

健康寿命延伸に向けて～高血圧対策～

会場：津南町役場大会議室

講師：津南町立津南病院 院長 石川 眞一郎 先生

3)平成 24 年 7 月 4 日(水)

血液検査から見えてくる課題

会場：津南町公民館・文化センター

講師：東京慈恵会医科大学 准教授 西村 理明 先生

4)平成 24 年 9 月 12 日(水)

ストレスとは～対応

会場：津南町役場大会議室

講師：山下メンタルクリニック 院長 山下 正廣 先生

5)平成 24 年 10 月 25 日(木)

お口の健康について

会場：津南町役場大会議室

講師：津南デジタルクリニック 院長 山田 陽子 先生

6)平成 24 年 11 月 22 日(木)

小児医療の今

会場：津南町役場大会議室

講師：東京慈恵会医科大学看護科 教授 伊藤 文之 先生

7)平成 24 年 12 月 7 日(金)

健康づくりにおける運動の取り組み

会場：津南町役場大会議室

講師：レインボー健康活動普及協会 副理事長 関口 陽子 先生

8)平成 24 年 12 月 7 日(金)

認知症の原因と予防策

会場：津南町役場大会議室

講師：厚生連中条第二病院 精神科 有田 正知 先生

※ 津南塾は以上の 8 件が年内の講演会の実績と予定です。

医療従事者のスキルアップ事業計画

1)平成 24 年 11 月 9 日(金) 午後 18 時 30 分～

禁煙指導者養成講座(基礎編)

禁煙のための知識とコツ

会場：十日町情報館1階 視聴覚ホール

講師：新潟大学医学部保健学科 教授 関 奈 緒 先生

2)平成 24 年 11 月 30 日(金) 午後 18 時 30 分～

禁煙指導者養成講座(応用編)

禁煙のための知識とコツ ワークショップ

会場：十日町地場産業振興センター[クロス10]

講師：新潟大学医学部保健学科 教授 関 奈 緒 先生

3)平成 24 年 10 月もしくは11月中に開催予定

いま求められている「グリーフケアの必要性」

会場:津南町公民館・文化センター

講師：(調整中)

4)平成 25 年 3 月 12 日(火) 午後18時 30 分～

十日町市中魚沼郡学術講演会と連動

歯周病と全身疾患の関係

会場：十日町地場産業振興センター[クロス10]

講師：新潟大学歯学部総合研究科 教授 山崎和久 先生



十日町市中魚沼郡学術講演会について

1. 現状の十日町市中魚沼郡学術講演会の問題点

- ・参加者の固定化
- ・テーマの重複（新薬の宣伝の場では？）
- ・講演内容が適当なのか？（医師・歯科医師・薬剤師）
- ・情報交換会は必要か？
- ・住民の啓蒙活動に利用できないか？

2. 十日町市中魚沼郡学術講演会についてのアンケート結果

アンケート結果	医師 27名	その他 47名	アンケート結果	医師 27名	その他 47名
(1)十日町市中魚沼郡学術講演会には			(2)講演内容について		
①ほぼ毎回参加	9	28	①満足	12	40
②年に数回	12	19	②不満	3	0
③ほとんど参加しない	5	0	③どちらでもない	11	7
④その他	1	0	④その他	1	0
(3)講演時間について			(4)情報交換会について		
①ちょうどよい	24	43	①ほぼ毎回参加	9	21
②長い	0	1	②たまに参加	9	9
③短い	0	3	③ほとんど参加しない	7	17
④その他	3	0	④その他	2	0
(5)今後の情報交換会は					
①実施した方がよい	11	19			
②実施しなくてよい	3	1			
③どちらでもよい	13	25			
④その他	0	2			

(1) 十日町市中魚沼郡学術講演会に参加しない理由

(医師)

- ☆他の行事と重なる
- ☆仕事が終わらない事が一番ですが、専門分野でないことも。(興味がない)
- ☆病院の義務で居残りなどの公的業務のため。
- ☆参加したいが当直があり参加しないことが多い。
- ☆手術等による時間的都合で。
- ☆高齢のため。
- ☆怠慢です。
- ☆ほとんど専門外であるし、忙しいため。

(その他)

- ☆他の会議と重なる。
- ☆18:30まで仕事をしているので、たまたま早く終わった時にだけしか参加できないため、また参加できても必ず途中からしか参加できないので遠慮してしまう。
- ☆時間的に参加できない日があります。
- ☆業務多忙なため。
- ☆会場が職場より遠いため
- ☆案内が来ないため。

(2) 講演会の内容について

(医師)

- ☆内容はいいが、テーマが重複し偏っている。
- ☆製薬会社の宣伝に利用されているだけの演題の感が強い。新薬が出ればそれに関係するものばかり、医師会が独自に演題を決めそれに協賛させるようにすべき。
- ☆良いこともそうでないこともある。

(その他)

- ☆勉強不足なため難解なこともあり。
- ☆内容がこのところ広範囲なので興味のある時とそうでない時があるため。
- ☆もっと現場で活かせる内容もあるとよい。例えば症例とか。基礎部分を再度勉強するのもためになる。
- ☆直接歯科と関係ない講演が多いのですが医師会主催ですから歯科医師会としても個人としても内容に希望を出せる立場にはないと思われます。
- ☆難しすぎる時があります。

(3) 講演会後の情報交換会について

(医師)

- ☆立食であり、医師以外の参加者が多すぎる。
- ☆都合が合った時にのみ参加。
- ☆親しい人がいないから参加しない。
- ☆顔ぶれが同じ。
- ☆懇親会が豪華になりすぎているきらいがあり、それが製薬会社にイニシアティブをとられる原因になっているのでは？演題と製品は全く関係なくてもいいのでは？
- ☆毎回でなくてもよい。やるならもっと多数参加を、今は中途半端。
- ☆終了したあとに沢山残った食べ物、飲み物をもつたいたいと思う。もっとリーズナブルな予算で行って、なくなったらそこで終了で十分ではないかと思われる。
- ☆折角の機会です。少しでも情報交換の機会があれば有難いです。
- ☆年に数回が良い。
- ☆会員の交流、意見交換のために必要。
- ☆講演者から講演以外の本音をきける。
- ☆金と時間の無駄。
- ☆あまり意味がない。
- ☆頻繁になると、成人病予防に不適當な料理。

(その他)

- ☆自宅が遠方なため。
- ☆家庭の都合。
- ☆結局は知っている先生と話をしてしまい、知らない先生との情報交換の場になっていない。プロパーさんからのタダ酒、タダ料理も抵抗あり。
- ☆他の病院の方と話ができる。
- ☆交流をもてるため。情報交換会できる場が他にない。
- ☆時間的に参加は難しいが交流会が必要な方がいたら実施したら良いのではないかと？
- ☆あってもいいが、早く終了してほしい。
- ☆他の薬局の方や Dr と知り合いになることができるので。
- ☆職種ちがう方となかなか交流しにくい、いつも同じような顔ぶれ、弁当のようなものでもよいのでは？残った料理がもったいない。
- ☆日頃お会いできない先生達 (Dr) との話をする機会ができ、ありがたく思っている。
- ☆講演会場では質問しにくいことなどもありますし、ごあいさつさせて頂くこともありますので。
- ☆他の HP・施設の方とお話しできる機会であるから。
- ☆出席したことがないので解りません。面識のない方との食事会は？というところもあります。

(4) 医師会学術講演会に意見

(医師)

- ☆回数が多すぎるので、年4回位にしてみてもよい。
- ☆医師だけの会、医薬だけの会とかでよい。
- ☆現在と同様、年に10回程度お願いします。
- ☆合同の会で参加人数が保たれるのでは。
- ☆座長は学術担当理事が原則出て行くべきと思われる。講演会の質疑応答時間は多くするべき。
中には端折る座長がいる。懇親会の時間を端折るべきでは？学術講演会なのだから。
- ☆参加者や対象者を広げたい。
- ☆自分としては専門医資格を維持できれば、他科の勉強までのモチベーションがわからず、他に有用な時間の使い道があるため、あまり関心がないというのが正直な気持ちです。

(その他)

- ☆毎回様々な内容の講演で大変勉強になります。
- ☆今後も現在のままで特に問題はないと思います。
- ☆著名な先生のご講演を拝聴できて、いつも大変ためになります。
- ☆私は平成6年6月よりこの講演会に参加させていただいています。一層勉強をしようと思う気がしました。
- ☆スライド内容を印刷された資料があると有難い。
- ☆いつも勉強をさせていただきありがとうございます。
- ☆歯科としては共通の話題となる高齢者医療についてお願いします。
- ☆交通事情などがあまりよくない当地区でいろいろな学会に参加できない私にとっては、とても有意義な勉強会です。ぜひ続けていただきたいと思います。

回答者

<p>医師 27名 内科 11、外科 2、整形外科 3、消化器科 2、小児科 1、眼科 2、産婦人科 1、循環器科 2、皮膚科 1、麻酔科 1、呼吸器科 1</p>	<p>その他 47名 薬剤師 34、歯科医師 7、コメディカル 6</p>
---	--

3. 今後の十日町市中魚沼郡学術講演会について

3段階に分けて実施（4月20日 歯科・薬剤師会了承済み）

① 十日町市中魚沼郡学術講演会 拡大版：	
日時	5・7・9・11・1・3月の第3火曜日夜
会場	クロス10
対象	医師会・歯科医師会・薬剤師会・栄養士会に加えて、看護師・保健師など医療・保健関係者にも参加を募る
講演時間	講演60分 質疑応答15分（長め）
情報交換会	なし ただし講師に希望あれば懇親会（会費制？）も

② 十日町市中魚沼郡学術講演会 通常版：	
日時	4・6・10・2月の第3火曜日夜
会場	ラポート
対象	医師会・歯科医師会・薬剤師会・栄養士会
講演時間	質疑応答も含め60分位（現状通り）
情報交換会	あり

③ 十日町市中魚沼郡学術講演会（医師勉強会）縮小版：	
日時	1月を除く第1金曜日夜
会場	ラポート
対象	医師のみ（医師会員かは問わず）
講演時間	質疑応答も含め60分以上
情報交換会	あり（またはお弁当）

縮小版（医師勉強会）を開催する意味

- ・医師のみ参加で専門性の高い内容の講演を受けられる
- ・症例検討ができる
- ・日時・曜日を決めておく方が予定を立てやすく、動員しやすい
- ・メーカーの希望もある
- ・病院医師の参加を募る

4. 平成 24 年度 十日町市中魚沼郡学術講演会 < 計画 >

① 拡大版：通常時参加者に加え看護師・保健師他、医療従事関係者	(会場：クロス 10)
<p>・平成 24 年 7 月 17 日 演題「4 価HPVワクチン ー幅広い予防を目指してー」 講師：社会保険相模野病院 婦人科腫瘍センター センター長 上坊 敏子先生 座長：医療社団法人 たかき医院 院長 高木 成子 先生 担当：MSD株式会社</p>	
<p>・平成 24 年 9 月 18 日 演題「胃がん・胃潰瘍・ピロリ菌：調整中」 担当：アストラゼネカ株式会社</p>	
<p>・平成 24 年 11 月 20 日 演題「感染症 ー小児ワクチンー：調整中」 担当：株式会社ジャパンワクチン</p>	
<p>・平成 25 年 1 月 15 日 演題「うつ病・自殺対策について：調整中」 担当：グラクソ・スミスクライン株式会社／大日本住友製薬株式会社</p>	
<p>・平成 25 年 3 月 12 日 演題「歯周病と全身疾患の関係：調整中」 講師：新潟大学歯学部総合研究科 教授 山崎 和久 先生 座長：十日町市中魚沼郡歯科医師会 会長 蕪木 彰(蕪木歯科医院 院長)先生 担当：十日町市中魚沼郡歯科医師会</p>	
② 通常版：医師会・歯科医師会・薬剤師会・栄養士会	(会場：レポート十日町)
<p>・平成 24 年 5 月 15 日 演題「認知症診療における処方設計」 講師：新潟大学 超域学術院・神経内科 准教授 池内 健先生 座長：新潟県立十日町病院 神経内科 診療部長 山崎 元義先生 担当：第一三共株式会社</p>	
<p>・平成 24 年 6 月 19 日 演題「血圧変動性と高血圧治療～家庭血圧、24 時間血圧のコントロール」 講師：国立循環器病研究センター生活習慣病部門長 高血圧・腎臓科部長 河野雄平 先生 座長：町立津南病院 院長 石川眞一郎 先生 担当：武田薬品工業株式会社</p>	
<p>・平成 25 年 8 月 21 日 演題「高脂血症：調整中」 担当：シオノギ製薬株式会社</p>	
<p>・平成 24 年 10 月 16 日 演題「COPD 関連：調整中」 担当：株式会社 エーザイ</p>	

③縮小版（医師勉強会）：医師のみ（医師会員かは問わず）	会場：レポート十日町
<p>・平成 24 年 7 月 6 日</p> <p>演題「骨粗鬆症におけるエディロールの役割」</p> <p>講師：武蔵藤沢セントラルクリニック 院長 和田 誠基 先生</p> <p>座長：せき整形外科 院長 関 真人 先生</p> <p>担当：中外製薬株式会社</p>	
<p>・平成 24 年 8 月 3 日</p> <p>演題「肺高脂血症の診断と治療」</p> <p>講師：新潟大学大学院歯学総合研究科医学部器官制御医学 循環器学分野 小幡 裕明先生</p> <p>座長：新潟県立十日町病院 内科部長 山口 征吾 先生</p> <p>担当：アテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社</p>	
<p>・平成 24 年 9 月 7 日</p> <p>演題「アルツハイマー型認知症：調整中」</p> <p>担当：小野薬品工業株式会社</p>	
<p>・平成 24 年 10 月 5 日</p> <p>演題「骨粗鬆症関係：調整中」</p> <p>担当：ファイザー株式会社</p>	
<p>・平成 24 年 10 月 30 日</p> <p>演題「糖尿病と閉塞性動脈疾患：調整中」</p> <p>担当：サノフィアベンティス株式会社</p>	
<p>・平成 24 年 11 月 2 日</p> <p>演題「骨粗鬆症関係：調整中」</p> <p>担当：旭化成ファーマ株式会社</p>	
<p>・平成 24 年 12 月 7 日</p> <p>演題「気管支喘息：調整中」</p> <p>担当：アストラゼネカ株式会社</p>	
<p>・平成 25 年 2 月 19 日</p> <p>演題「致死性イベント回避を視野に入れた降圧薬の選定：調整中」</p> <p>担当：協和発酵キリン株式会社</p>	

※7月1日現在の計画状況です。
都合により変更になることもあります。
随時、情報提供を致します。

平成 23 年度 地域産業保健事業実績報告書

期間：平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 30 日

I. 基本的事項

1. 実施機関名（委託先）：新潟県医師会十日町地域産業保健センター
 2. 労働局名：十日町労働基準監督署
 3. 圏域の数：2（十日町市、中魚沼郡津南町）
 4. 従事者：
 ・産業医数 22名
 ・保健師数 5名
 ・コーディネーター数 1名

II. 事業実績

1. 特定健康相談

■場所別開催回数

- ・医療機関：93回（うち、夜間・休日：1回）
 ・事業場訪問：2回（うち、夜間・休日：0回）
 ・その他の施設：29回（うち、夜間・休日：29回）

■相談実施件数（2回以上開催した場合はそれぞれ計上）

	合計		うち、夜間・休日	
	計画	実績	計画	実績
① 健康診断に基づく医師の意見 相談事業場数	150	166	5 崔・24 社	5 崔・31 社
〃 意見対象労働者数	1,000	1,296	700	990
② 脳心臓疾患有リスク者保健指導	800	967	500	701
③ メンタル不調者 相談・指導	50	85	30	85

2. 面接指導

■場所別開催回数

- ・医療機関：0回（うち、夜間・休日：0回）
 ・事業場訪問：2回（うち、夜間・休日：2回）
 ・その他の施設：0回（うち、夜間・休日：0回）

■面接指導実施人数（同一労働者に2回以上実施した場合はそれぞれ計上）

- ①長時間労働者（100時間超申告者）[法66条の8]：5人（うち、夜間・休日：0人）
 ②その他長時間労働者 [法66条の9]：12人（うち、夜間・休日：0人）

3. 地域産業保健事業運営協議会

■開催回数

- ・都道府県単位の協議会：2回
 ・圏域単位の協議会：1回

III. コーディネーター

- ・活動日数：165.5日

IV. その他（上記以外の活動実績）

- ① 事業所訪問健康講話・保健指導：13回（147事業所、520名が参加）
 ② 事業所訪問メンタルヘルス健康講話・保健指導：8回（123事業所・350名参加）
 ③ 十日町地域産業保健センター事業所説明会 15回（192事業所・708名参加）

十 中 医 第 39 号

平成 24 年 7 月 9 日

十日町市市長
関口 芳 史 様

津南町町長
上 村 憲 司 様

社団法人 十日町市中魚沼郡医師会
会 長 富 田 浩

休日一次救急診療所開設に関する要望書

日頃より十日町市中魚沼郡医師会の活動にご理解とご支援・ご協力を賜り御礼申し上げます。

十日町市中魚沼郡医師会は、長年に渡り十日町市と津南町の委託を受けて休日在宅当番制にて休日一次救急診療を行って参りました。しかしながら、昨年度に十日町市健康支援課と十日町市地域中核病院建設推進室のご協力を得て行った住民の休日および夜間一次救急に関するアンケート調査や、平成 20・21 年度の休日当番医受診状況報告および県立十日町病院の救急外来受診者数報告を合わせて検討した結果、医師会による在宅当番医開設時間帯にも関わらず年間 2,000 人近くが県立十日町病院の休日救急外来を受診していること、医師会在宅当番医受診者に施設別や地理上の問題から偏在がみられ、経営面でも機能しているとは言えない当番医も存在すること、そして住民のアンケート調査では在宅当番医制よりセンター方式の休日救急診療所開設を望む声が大多数であることが判明しています。先日開催いたしました平成 24 年度十日町市中魚沼郡医師会第一回通常総会でもこのような状況を鑑み、魚沼二次医療圏の病院群の再編に伴いさらに医師不足が進む危機的状況の中で地域の救急医療を支える十日町病院の医師が疲弊して地域の二次救急への対応にも支障が出る状況を回避するとともに、十日町圏域の休日一次救急を効率的かつ住民の希望に沿った形で実施するためには、休日一次救急診療所の開設が必要であると決議されました。十日町市と津南町にはこのような現状の休日一次救急診療における問題点をご賢察いただき、行政と医師会の協力の下に休日一次救急診療所をできるだけ早く開設されることを要望いたします。

十日町圏域の休日一次救急問題について

・休日在宅当番医制を問題とする理由

1. 受診患者の利便
2. 県立十日町病院の支援
3. 市の姿勢への疑問
4. 個人医院の経営上の問題

・休日一次救急当番医：これまでの経緯

- (1) 平成 18 年 1 月 医師会員アンケート
- (2) 平成 21 年 1 月 十日町病院等の医療体制に検する検討会報告
- (3) 平成 21・22 年度 休日在宅当番医実施状況調査
- (4) 平成 22 年 12 月 県内 16 医師会へのアンケート
- (5) 平成 23 年 6-7 月 十日町圏域の休日と夜間における救急医療に関するアンケート
- (6) 平成 24 年 1 月 第 2 回医師会員アンケート
- (7) 平成 21-24 年度 休日在宅当番医と十日町病院救急外来患者数集計

(1) 平成 18 年 1 月 医師会員アンケート (対象 50 名 回答 34 名)

19 年以降の休日当番医制について (重複回答あり)

1. センター方式 16 名 2. 在宅方式 14 名 3. 併用制 5 名

(2) 平成 21 年 1 月 十日町病院等の医療体制に検する検討会報告

市が主体となってなすべきこと

1. 地元医師会と連携して 24 時間応急診療所を建設
2. 救急ワークステーションの建設
3. 地域保健センターの開設
4. 看護師養成学校の誘致
5. ヘリポートの設置

(3) 平成 20・21 年度 休日在宅当番医実施状況調査

1. 年間患者数 約 3,300 人
2. 一施設当たり平均 33 人 (診療所 44.8 人 : 民間病院・市診療所 16.7 人)
3. 初診 73% : 再診 27%
4. 初診患者の 48%が 15 歳未満の小児 (そのうち未就学児が 6 割)

(4) 平成 22 年 12 月 県内 16 医師会へのアンケート調査

質問 1: 郡市医師会として休日および夜間 1 次救急診療を行っていますか？

① 休日のみ行っている		10 件
② 平日の夜間も行っている		11 件
③ 休日、夜間とも行っていない		0 件

(※在宅輪番制とセンター制の併設あり)

質問 2: 1次救急診療を行っている場合、その体制はどのようなものですか？(複数回答)

① 診療所の在宅輪番制		7 件
② 医師会または公立の1次救急診療所を開設		11 件
③ 中核病院の救急外来等へ参加		4 件

(※在宅輪番制とセンター制の併設あり)

質問 3: 1次救急診療へ参加するのは？(複数回答)

① 郡市医師会の診療所会員		16 件
② 郡市医師会の勤務医会員		7 件
③ 外部委託のアルバイト医師		2 件

質問 4: 1次救急診療への市町村の関わりは？

① 市町村が主体となり運営し、医師会員が参加する		6 件
② 市町村から委託を受け補助金をもらって医師会が運営する		8 件
③ 市町村は関与せず、地区医師会独自で運営を行う		1 件
④ 市町村が委託補助、中核病院が運営、医師会員が参加する		3 件

(※在宅輪番制とセンター制の併設あり、回答より中核病院が運営するケースは④として追加した)

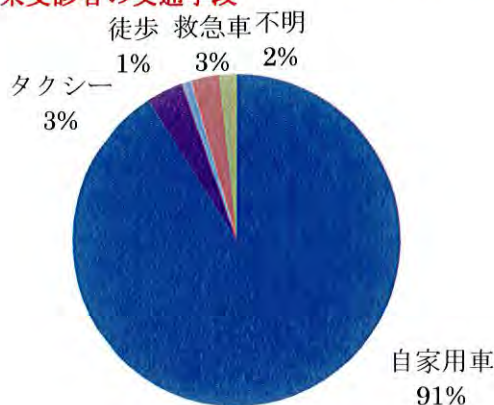
(5) 平成 23 年 6-7 月 十日町圏域の休日と夜間における救急医療に関するアンケート

- 90%以上が自家用車を利用して受診
- 在宅当番医が近い時だけ受診
- それ以外は十日町病院を受診

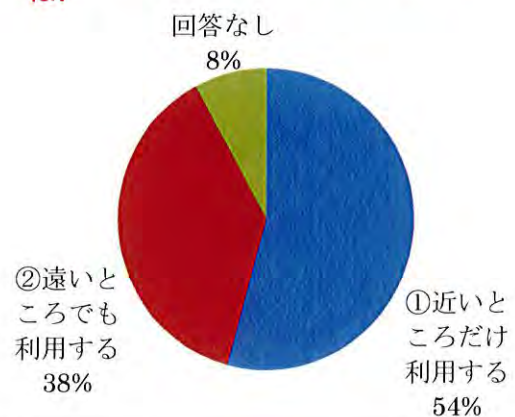
(理由：かかりつけ医でない不安、在宅当番医だと所在地が不明、次回の受診が不便)

- 市の中心部で十日町病院に近いところでの休日一次救急診療所の開設を期待
- 平日夜間(18時 - 22時程度)も休日一次救急診療所を受診できる体制を希望

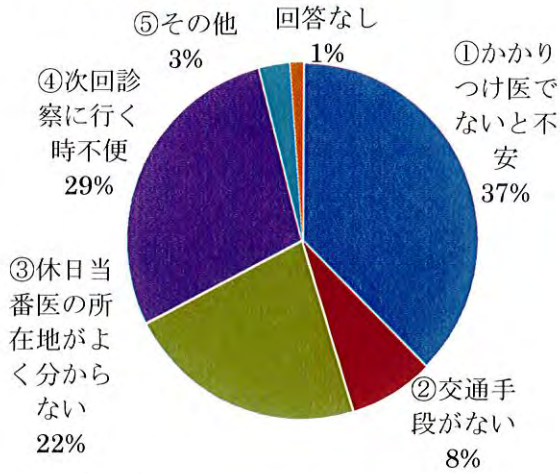
休日当番医または県立十日町病院救急外来受診者の交通手段



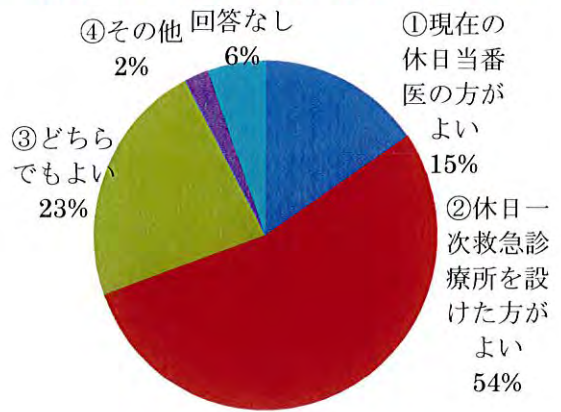
休日当番医は医師会員が自院で当番制により実施していますがご利用に際しては？



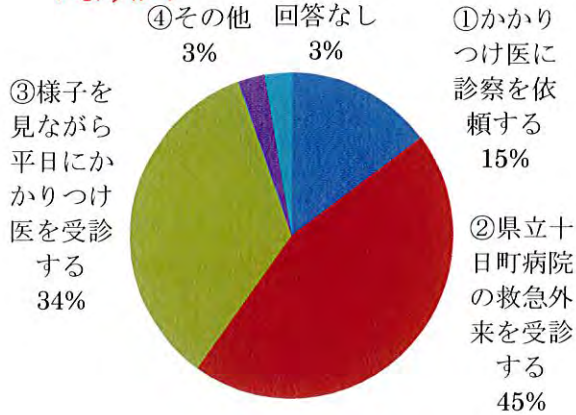
近いところだけ利用する方に伺います。
その主な理由はどんな点ですか？



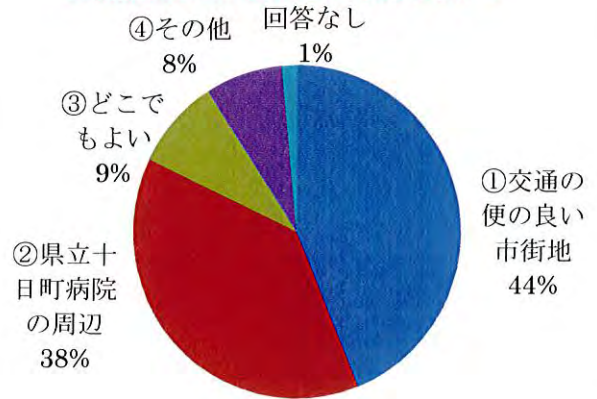
新たに休日一次救急診療所を設ける
構想について、どうお考えですか？



休日に体調不良となった場合に休日救急
当番医を受診されないときはどうされて
いますか？

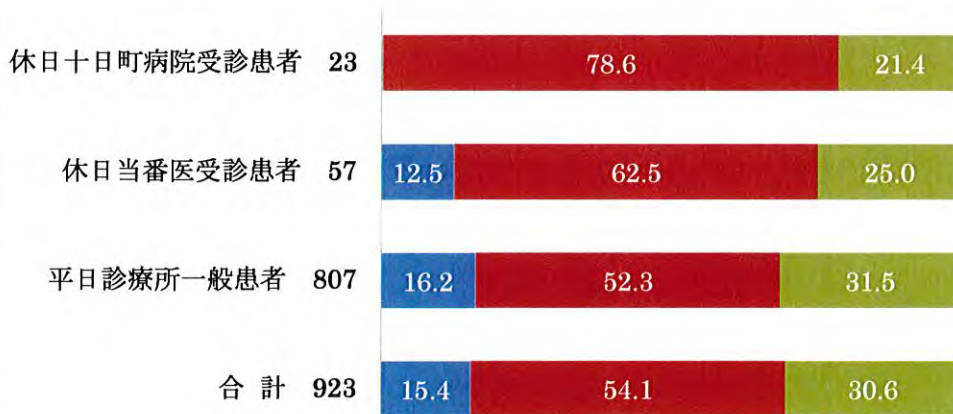


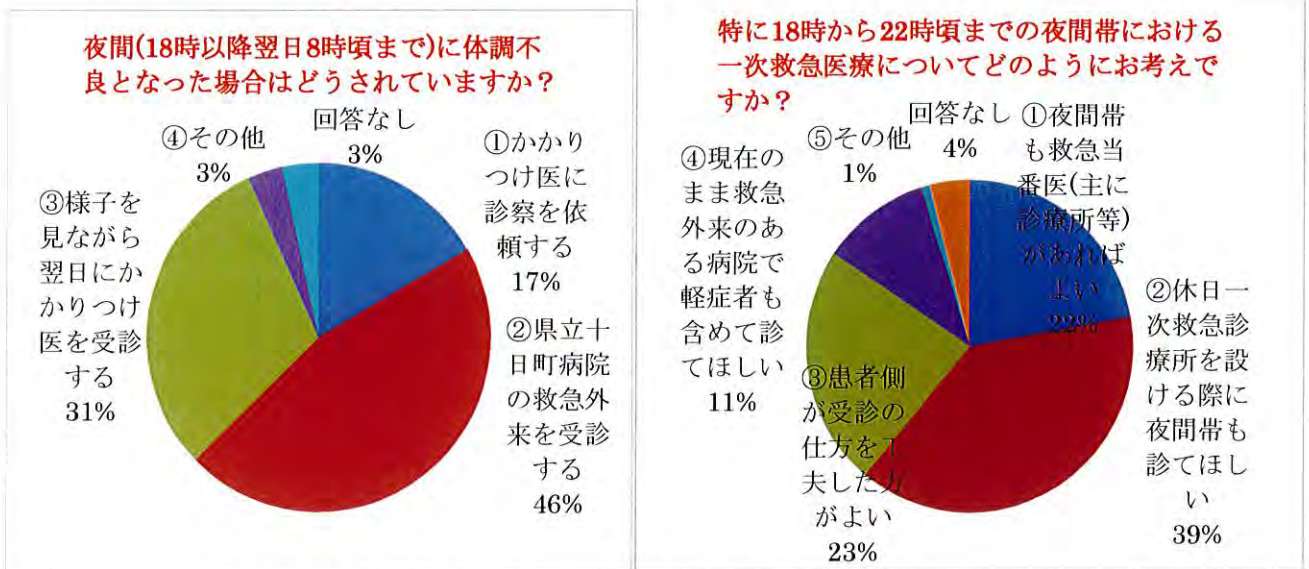
休日一次救急診療所を設けた方がよいと
答えられた方に伺います。設けるとしたら
場所はどこがよいとお考えですか？



希望する休日一次診療の形態は？

■在宅当番医制 ■センター制 ■その他





※在宅休日当番医・県立十日町病院救急外来および平日の診療所等の外来でのアンケートの配布数は1,394、回収数は919(回収率65.9%)

(6) 平成24年1月 第2回医師会員アンケート (対象49名 回答25名)

現状の在宅当番医制について

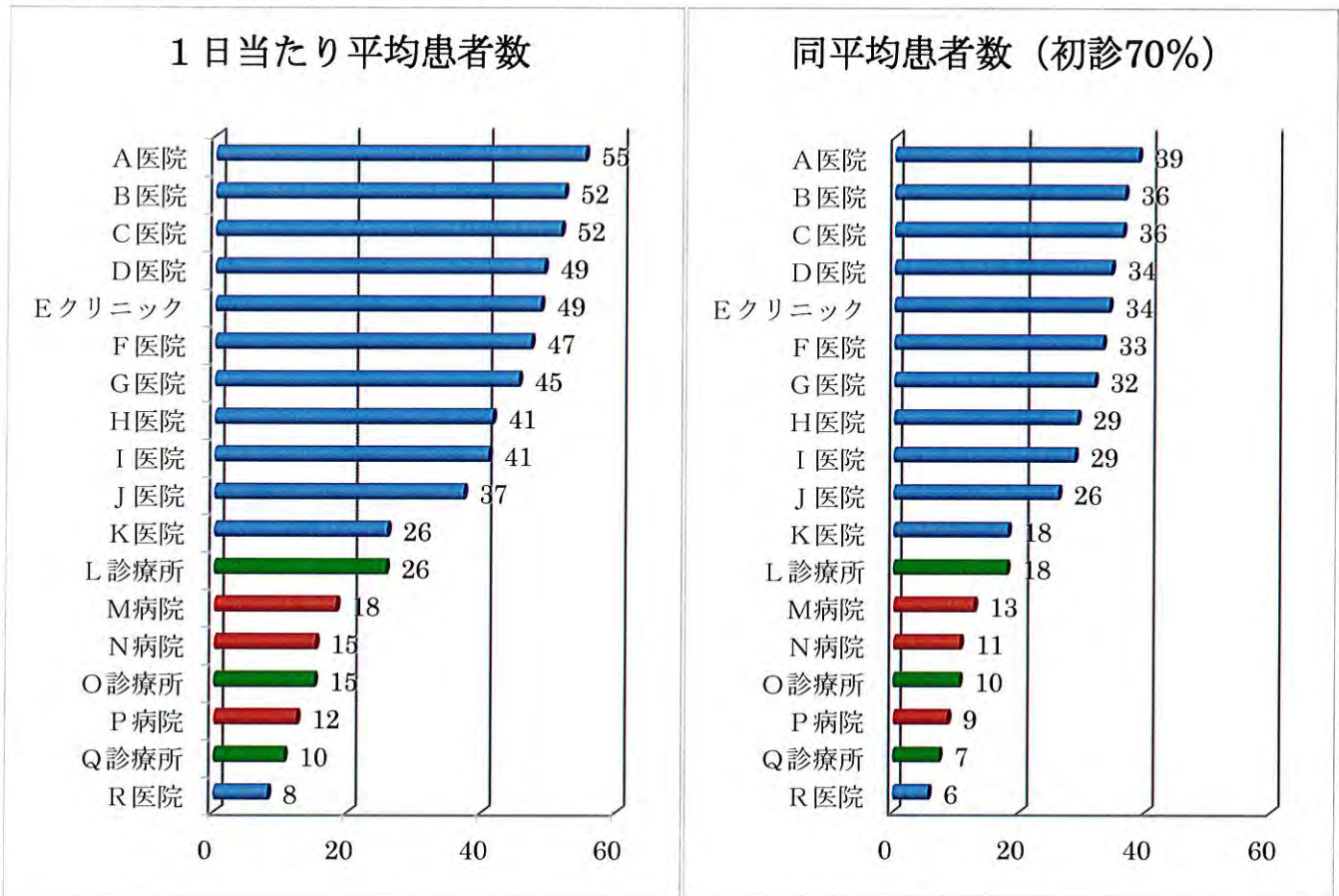
1. 見直すべき 13名 2. 現状でよい 7名 3. どちらでもよい 5名
(休日当番医参加19施設の回答)

①現状の在宅当番制について	見直すべき 11	現状でよい 5	どちらでもよい 2	不明 1	
②休日一次救急診療所を開設した場合	参加または条件付き参加 12	不参加 5	未定 1	不明 1	
③休日一次救急診療所と在宅当番医制の併用について	賛成 6	反対 5	その他 6	不明 1	
④休日一次救急診療を土曜と平日夜間も行うことは	賛成 9	反対 6	その他 3	不明 1	
⑤休日一次救急診療所を開設するとしたら運営主体は	行政 11	中核病院 1	医師会 4	その他 2	不明 1
⑥休日一次救急診療所を国保川西診療所で試験的に実施する案について	参加または条件付き参加 13	不参加 4	その他 1	不明 1	

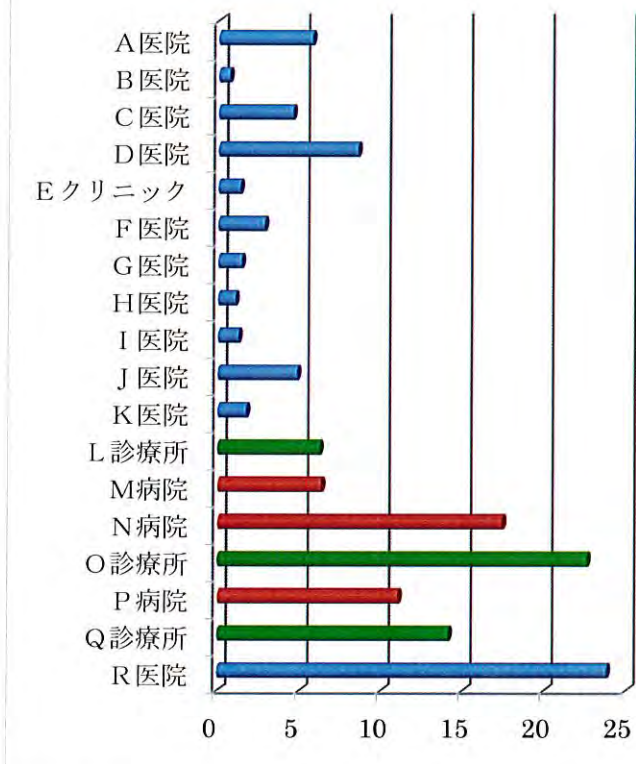
- 十日町市中魚沼郡医師会員も現状の在宅当番医制の見直しが必要と認識
- 休日一次救急診療所の設置も半数以上の会員が支持
- 開設までの期間として川西国保診療所を休日一次救急診療所として試験運用する案に賛同

(7) 平成 21-24 年度 休日在宅当番医と十日町病院救急外来患者数集計

1. 平成 20-23 年度休日一次救急在宅当番医受診状況



県立十日町病院までの距離(km)



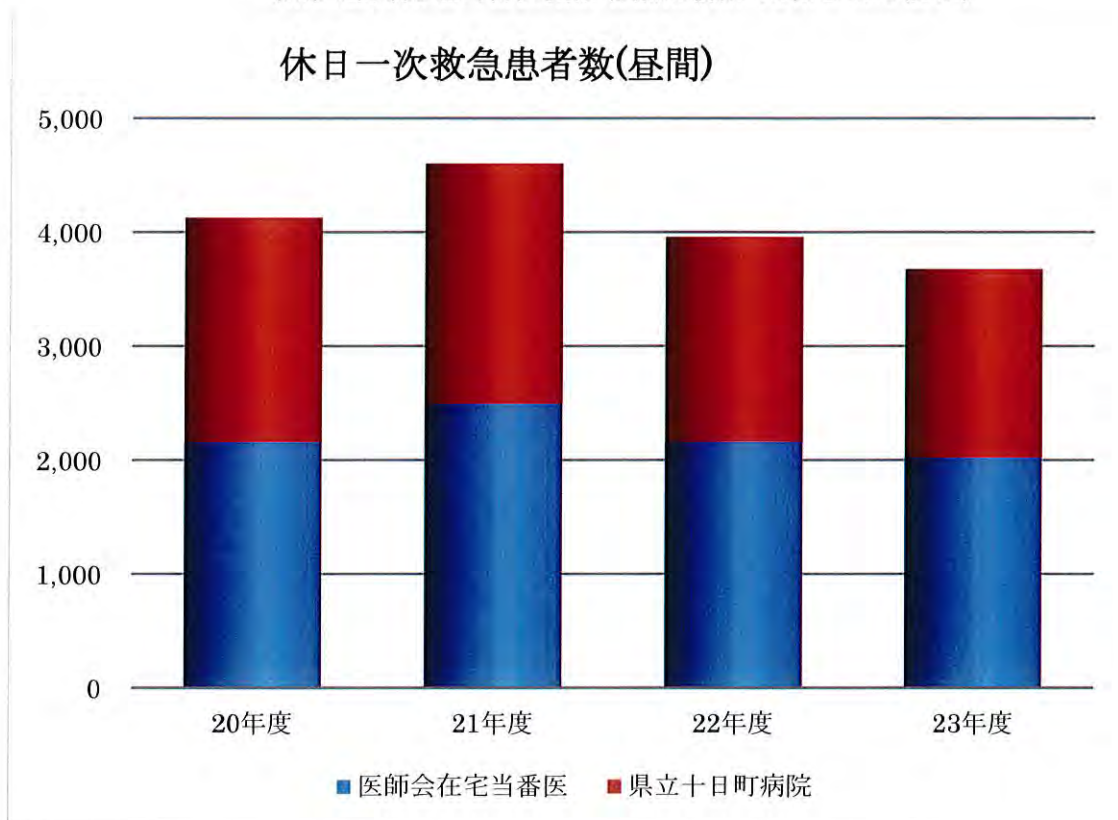
(1) 当番医の所在地が市街より遠い民間病院群と市立国保診療所への受診者が少ない

(2) 在宅当番医受診者には急患に相当しない30%程度の再診患者が含まれている。

(3) 民間診療所の場合は市の中心部(県立十日町病院)から遠くても受診者の多い場合もある。

2. 平成 20-23 年度在宅当番医および県立十日町病院救急外来受診状況

(※医師会在宅当番医受診者数は初診 70%として修正)



- (4) 十日町圏域の昼間の休日救急患者は年間約 4,000 人
 年末年始を含む年間休日を 72 日として 1 日当たり約 55 人と推計
 二次救急を含む約半数は県立十日町病院を直接受診 (十日町病院の負担が非常に大きい)

・休日一次救急センターの具体化案

開設主体	十日町市	県立十日町病院	十日町市中魚沼郡医師会
開設場所	①国保川西診療所 (試験的) ②市役所か市分庁舎内 ③地域保健センター新設 文化会館に併設など	①県立十日町病院内 ②病院敷地内の別棟	未定
経営主体	①市が全面的に経営 ②医師会に委託	①県立病院が経営	①医師会が経営 ②既存医院が経営
問題点	①職員・予算確保のため診療所の統廃合必要に? ②設備投資 (多額) ③調剤 (センター内・外?) ④運営を医師会委託の場合 市から補助金	①人件費を市が補助 ②県・病院との調整	①設備投資 (X 線など) ②職員確保 ③駐車場確保 ④市から補助金

※試験実施の場合は市の医師は川西診療所で診療する (松之山・倉俣では当番医を行わない)
 ※市と医師会は協力して住民への十分な周知活動を行う
 ※医師以外の人員確保については市が責任を持つ

・国保川西診療所でのセンター化試験実施について

1. 在宅当番医制との併用
2. 受診者がわかりやすいように振り分ける
 - ①日曜日は川西診療所、祝日・振替休日・年末年始は在宅当番医
 - ②奇数月は川西診療所、偶数月は在宅当番医
3. 受診者の反応や、県立十日町病院救急外来受診者への影響を調べる

・休日一次救急センター化について市および県立病院の考えと医師会の提案について

平成 21 年度に出された新十日町中核病院建設に関する報告書（十日町病院等の医療提供体制に関する検討会）には、市が主体となってなすべきこととして、地区医師会と連携して 24 時間応急診療所の建設をすることが挙げられている。しかし 5 月 2 日に行われた、市担当者との協議では、市は主体的に運営する案(意思)を持たないように感じられた。市は県立病院内でのセンター化を期待しているようだ。医師会としては、市が診療所機能を有する医療・保健・福祉センターを新十日町病院の隣接地に建設・運営することが望ましいと考える。一次救急診療所としてだけでなく、新型インフルエンザや災害時医療の第 2 の拠点や、集会および研修施設などとして運用できるのではないだろうか。医師会、病院、市の三者間での協議が必要と思われる。（文責 十日町市中魚沼郡医師会 富田 浩）

十 中 医 第 39 号
平成 24 年 7 月 9 日

十日町市市長
関 口 芳 史 様

津南町町長
上 村 憲 司 様

社団法人 十日町市中魚沼郡医師会
会 長 富 田 浩

休日一次救急診療所開設に関する要望書

日頃より十日町市中魚沼郡医師会の活動にご理解とご支援・ご協力を賜り御礼申し上げます。

十日町市中魚沼郡医師会は、長年に渡り十日町市と津南町の委託を受けて休日在宅当番制にて休日一次救急診療を行って参りました。しかしながら、昨年度に十日町市健康支援課と十日町市地域中核病院建設推進室のご協力を得て行った住民の休日および夜間一次救急に関するアンケート調査や、平成 20・21 年度の休日当番医受診状況報告および県立十日町病院の救急外来受診者数報告を合わせて検討した結果、医師会による在宅当番医開設時間帯にも関わらず年間 2,000 人近くが県立十日町病院の休日

救急外来を受診していること、医師会在宅当番医受診者に施設別や地理上の問題から偏在がみられ、経営面でも機能しているとは言えない当番医も存在すること、そして住民のアンケート調査では在宅当番医制よりセンター方式の休日救急診療所開設を望む声が大多数であることが判明しています。先日開催いたしました平成24年度十日町市中魚沼郡医師会第一回通常総会でもこのような状況を鑑み、魚沼二次医療圏の病院群の再編に伴いさらに医師不足が進む危機的状況の中で地域の救急医療を支える十日町病院の医師が疲弊して地域の二次救急への対応にも支障が出る状況を回避するとともに、十日町圏域の休日一次救急を効率的かつ住民の希望に沿った形で実施するためには、休日一次救急診療所の開設が必要であると決議されました。十日町市と津南町にはこのような現状の休日一次救急診療における問題点をご賢察いただき、行政と医師会の協力の下に休日一次救急診療所をできるだけ早く開設されることを要望いたします。

□■□■事業報告□■□■(2012.2.1～3.31)

日付	事業・会議名	会場	担当者名
2月1日	第2回国民健康保険運営協議会	十日町市役所	富田副会長・室岡理事・高木理事
2月4日	第162回新潟県医師会臨時代議員会	新潟県医師会	池田会長
2月7日	MC 専門部会	十日町消防署	池田会長・江村局長
2月8日	平成23年度糖尿病ワークショップ実行委員会	十日町保健所	池田会長・山口理事・江村局長
2月14日	第4回郡市医師会長協議会(TV会議システム)	医師会事務局	池田会長
〃	妻有の里地域医療・地域ケアを支え隊第1回準備会	十日町地域振興局	江村局長
2月15日	大島電気㈱ メンタルヘルス健康講和	大島電気㈱	山下先生・江村コーディネーター
2月17日	魚沼基幹病院(仮称)の整備に向けた取組状況等に係る説明会	南魚沼地域振興局	富田副会長・山口(孝)先生
2月21日	十日町市児童虐待防止連絡協議会	保健センター	江村局長
〃	十日町市中魚沼郡学術講演会	ラポート十日町	会員・事務局
2月22日	三師会	ラポート十日町	会員・江村局長
〃	十日町地域難病連絡協議会	十日町保健所	山口(孝)先生
2月23日	第4回十日町市介護保険運営協議会	十日町市役所	小林先生・江村局長
2月24日	十日町市健康づくり推進協議会	十日町市役所	池田会長・江村局長
2月25日	第135回 組合回	新潟県医師会	関先生
2月29日	第4回十日町自立支援協議会	保健センター	山口理事
〃	高齢者虐待防止運営推進会議	十日町地域振興局	江村局長

日付	事業・会議名	会場	担当者名
3月1日	㈱トックス メンタルヘルス健康講座	㈱トックス	有田先生・江村コーディネーター

